

森づくり最前線

利根沼田森林管理署 追貝森林事務所 森林官 鎌田 牧人

私が勤務する追貝(おつかい)森林事務所は、群馬県の北東部、沼田市から国道120号線を尾瀬方面に向かい、椎坂トンネルを抜けた沼田市利根町(旧利根村)に位置し、日本百名山の皇海山(すかいさん)を擁する栃木県境までの約11000鈔を管理しています。



皇海山

事務所の近隣には、東洋のナイアガラとも言われ、上毛カルタに「滝は吹割 片品溪谷」と歌われた「吹割の滝」があり、多くの観光客で賑わいます。また神話時代に「赤城の神」(大蛇)が戦場ヶ原で「日光の神」(ムカゴ)と戦った折、傷を癒やしたとされる老神温泉は傷に効く美人の湯と言われ、毎年5月に行われる大蛇祭りで使用される大蛇みこしは108鈔あり、祭り用の蛇の長さとしては世界一として2013年



吹割りの滝

にギネス認定されました。当事務所の特色の一つは、追貝から根利に抜ける総延長41kmの根利栗原川林道で、併用林道となっており、誰でも通れる林道としては関東随一の長さです。

中間地点には皇海山の登山口があり、多くの県から登山客が訪れます。近年この林道において、車で危険走行をしている様子を動画サイトに上げていた人物がいると市民からの指摘を受け、沼田市利根支所と合同で注意看板を設置し、県警にも情報共有したところです。オフロードバイクの専門誌にもこの林道の特集が組まれるなど、林道走行が目的の方々が増えている昨今です。



根利山に残る坑木を搬出するための施設跡

この長い林道が出来る遙か以前、明治31年から昭和14年にかけて、この奥山に2千人もの人々が住み、県境を越えた足尾銅山に坑木を供給するための一大基地があったことはあまり知られていません。

昨年12月に首席森林官(南郷・根利)らとともに現地を訪れて見たところ、かつて人々が暮らしたその面影が、静かに森に還りつつも、確かな遺構として残っていることを確認しました。

林内に目を向けると、その7割は天然林、3割が人工林で、当事務所でも鹿・熊による剥皮被害を受けており、スギだけでなく、カラマツまで被害を受けている状況です。

これまで、獣害対策も行ってきたが、手遅れの様相を呈している

林分も多く見られます。低コスト化が叫ばれる中、主伐リストに載った山をどのように扱っていくのか多くの課題はありますが、後生に残せる森づくりを行っていきたく考えています。



剥皮被害を受けたカラマツ林

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 230-1133

10月1日付け
群馬森林管理署
首席森林官(松井田・細野)